西東京市市民協働推進センター

令和３年度第１回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：令和３年４月 20 日(火)午後７時 00 分～９時 00 分
■開催場所：オンライン開催（Zoom）
■出席委員：川村委員、佐藤(新)委員、佐藤(文)委員、柴委員、永野委員、樋口委員、久松委員、平林委員、星委員、馬渕委員、森谷委員、山本委員<以上 12 名、五十音順>
■事 務 局：小松センター長、鈴木副センター長、小口福祉活動推進課長、利光地域福祉推進係長、塚澤主任

〇委員のご委嘱
〇自己紹介
〇事務局より、西東京市市民協働推進センター運営委員会について説明があった。

1.報 告 事 項

1.事業報告について

事務局より、３月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：円卓会議に参加した感想だが、初のオフラインでしっかり顔を合わせて開催できたこと、感染対策もしっかりしてもらったこと、アンケートの回収率が 100%であり、一緒に考えていくきっかけや一人一人の気づきが多い会議となったと思う。

委員長：研修で参加した円卓会議 IN 茨城 2021 の人材育成とサードプレイスについて、もう少し情報が欲しい。現在、中高生年代を対象にした児童センターを運営しているが、青少年のサードプレイスという言葉がよく出てくる。ユースワークといわれる分野も別の施設として役割を期待されている。この円卓会議であがったのはどのようなサードプレイスだったのか。

事務局：茨城県が主催であったため、東京都とは少しずれがあったとは思う。当日出されたサードプレイスは子ども食堂、おやじの会、PTA だ。児童センターの若者対象ではなく、大人と子どもに対し活動していることが主な話題であった。

委　員：こみゅラジについてだが、どのような方を対象にどのような目的でやっているのか聞きたい。

事務局：このラジオ番組に出演しているのは、市の政策で西東京市を４分割し立ち上げた地域協力ネットワークの方々だ。南部と西部に続き中部が立ち上がり、現在北東部の立ち上げを準備している。その中の南部地域協力ネットワークと西部地域協力ネットワークが参加しており、いずれは４圏域の参加を目標としている。地域の方が地域の方へ情報を届けることを目的としており、高齢者などネットで情報を取ることが難しい方たちへも、ラジオから発信することで情報を受け取れるチャンスがあるのではないかというコンセプトで開始した。

委　員：近隣７市市民活動情報連絡会だが、他市でのコロナ禍の市民活動の状況を聞きたい。また、近隣７市だが、八王子市や日野市より武蔵野市や小金井市が近いと思うがこの連絡会とは別に情報交換など行っているのか。

事務局：近隣７市の情報連絡会についてだが、武蔵野市は指定管理で運営しており小金井市は市民活動センターがきっちりと立ち上がっていない。現時点では特に交流はないが、今後参加の可能性はある。７市の選出は良くわからない。以前は６市であったが、１市増え７市となった。他市の市民活動についてだが、資金力の差はあるが、どの市も西東京市と同じような状態であったと感じている。センターの閉館、職員の配置、市民活動をオンラインでやっていくにあたりどのような手伝いができるか、オフライン時の飛沫感染を考えながらの支援など手探りで運営していたという感想が主な報告であった。

委員長：一件情報提供だが、毎月必ずアクセストップ10に入っているNPO法人猫の足あとが、民家や空き家を探しているので情報があればゆめこらぼに寄せて繋いでもらいたい。

2.４月以降の事業について

事務局より、４月以降の実施事業について説明があった。特に質疑はなかった。

3. 令和２年度報告書について

事務局より、令和２年度西東京市民協働推進センター事業報告（案）について説明があった。特に質疑はなかった。

4. 今年度の事業計画および予算について

事務局より、令和３年度西東京市民協働推進センター事業計画書・予算書について説明があった。

委　員：令和３年度の予算設定に当たり、コロナの影響でこの部分を変更しようという事業はあったのか。

事務局：令和３年度はコロナに対してというよりは人件費の増加に伴い事業で予算の調整があった。

委　員：人件費が上がったという説明だがコロナと関係あるのか。

事務局：コロナとは関係ない。同一労働同一賃金の影響を受け事業費が減少した。

委　員：租税公課の金額が多いが内訳を知りたい。

事務局：社会福祉協議会の中で市民協働推進センター事業が課税対象となっている為、消費税の支払いだ。

委　員：広報・PR事業の取り組みで、活動者が得たい情報とはなにか。人材・団体育成・研修事業の取り組みが重点事業となっている理由はなにか。

事務局：活動者が得たいと思う情報とは、ゆめこらぼへ来る団体や市民の意見を意識して聞くようにしている。昨年度はオンラインの必要性について、出来る限り直接利用者から情報収集を行い事業につなげた。また、３年に一度は実態調査として登録団体へアンケートをお願いしている。しかし、３年に一度なのでやはり直接利用者の声を拾うことに注力している。重点事業に関しては、行政からの依頼で、この５年間はこの事業を重点にやって欲しいと契約書に記載されているものだ。

委　員：第三者評価についてだが、どのような機関がどのような内容で行うのか。予算が低いので内容を知りたい。

事務局：福祉サービスのように第三者評価の指標など決まったものがない。市の担当課と何を指標としどのように評価していくかを現在も話し合いの途中である。今年度の実施にあたり、市内で中間支援に詳しい方などにお願いして評価してもらうことを検討している。

委　員：確認だが、福祉サービスの第三者評価とは主旨は同じだが、方法とかやり方が違うということか。

事務局：その通りである。

委　員：評価された情報や結果については公開され、それが市民や利用者の参考になるような有益な情報になることが期待されているということか。

事務局：ゆめこらぼの事業を運営していくうえで、PDCA の C の機能を持って行えればと考えている。仕様書並びに利用者のニーズに沿った運営ができているかの部分を、第三者の方に判断してもらいたいと考えている。

委　員：人材、団体育成・研修事業の取り組みだが、第４期が終了する時には誰も取り残さないとなっている。昨年度の NPO 市民フェスティバルの実行委員に参加したが、一昨年と委員のメンバーがガラッと変わり若返った印象だ。しかし、以前参加されていた人たちの参加が見られなかったので、NPO 市民フェスティバルに参加しにくくなったという感想などはなかったか。リアルで開催されていた時とオンラインで開催された時の顔ぶれが変わったので、ゆめこらぼへなにか意見は届いていないか知りたい。

事務局：確かに継続して入ったメンバーはいるが、ガラッと変わったと感じている。来なくなった方の意向をどう汲み取ったかということでは、パネル展示を会場開催で予定していた。しかし、オンラインになってしまったので、意見などあるかと思っていたが特になにもなかった。逆に委員が耳にした意見があれば共有して欲しい。

委　員：特に意見やコメントは聞こえてこないが、今まで顔を合わせていた方たちが居なかったので取り残されたと感じてしまったのではないかと危惧していた。今後も考えていく必要があると思った。

委員長：タイムリーな疑問だと思う。オンライン主体になってのイベント開催で、オンラインではない時期に参加していたメンバーが離れてしまったのではないかという危惧に対して、東京ボランティア・市民活動センターの状況を聞きたい。

委　員：多かれ少なかれ他の地域でも起きていると思う。我々が特に実感しているのは、いろいろな当事者性を持っているセルフヘルプのグループが、オンラインを余儀なくされる中で、参加しやすい、参加しにくいことがメンバー間で非常に差がある。本来なら、同じ境遇や同じ当事者性を持っている人たちが集まることで、支え合い頑張ってという部分がすごくある。わかりやすい例でいえば、AA の方たちなどは顔を合わせ励まし合って一日一日を積み重ねていくが、コロナ禍では当事者グループが集まるに集まれない。オンラインが得意の方は集まれるが、得意でない方は集まれない。メンバーがあまり固定されていない中で、来るメンバー層がガラッと変わってしまったなど戸惑いがある。西東京市の中でも活動体は同じようなことに局面しながらの一年ではなかったかと感じている。

委員長：今年度もオンラインでのイベント開催が続くと思うので、深めたい課題だ。次回以降もこのテーマを掘り下げていく機会もあるかと思う。

事務局より、令和３年度西東京市民協働推進センター活動計画書について説明があった。特に質疑はなかった。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：意見がなければ確定稿とする。

3. 協　議　事　項

1. 正副委員長の選出について

事務局より、委員長の選出について説明があった。

委員長：副委員長はこの場で決定したい。自薦他薦を問わず立候補はないか。

委　員：立候補する。

委員長：５月から馬渕委員に副運営委員長をお願いする。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：５月 18 日（火）19 時～21 時

会場：オンライン開催（Zoom）